



◇梅雨の季節◇

今日から6月、いよいよ本格的な梅雨の季節がやってきました。

最近では気候変動の影響もあるようで、梅雨とは縁のなかった北海道でも梅雨前線が北上し、蝦夷梅雨と呼ばれる年もあります。

梅雨が好きだといった方は少数派だとは思いますが、ではなぜ梅雨がそれほど好かれないのでしょうか。

梅雨時期は、当然のように晴れ間が少なく逆に雨が多くなります。そのため湿度が高くなり、ジメとした空気感の日々が多くなります。

感覚的にはこのジメとした空気が好まれないといったことが原因の一つでしょう。また物理的には、カビや雑菌の繁殖といった問題があります。更に農作物の出来不出来にも影響を与えます。

梅雨は稲作にとって重要な時期であり、適切な水分管理には不可欠なのです。ところが近年では、ゲリラ豪雨を含めた局所的な大雨も増えてきています。

梅雨時期の大雨は、災害対策も含め農作物において、その管理も非常に難しくなりつつあると言われております。

◇住環境◇

梅雨時期は、カビ・ダニ・雑菌等がその高い湿度の影響によって増加します。この季節は「コクサッキーウイルス」により発症する夏風邪や、手足口病等にも注意が必要です。食品関連でも腐り易い食品は特に注意しないと食中毒等の危険性が高まります。水分の多い食品は、冬や春に比べて早めに冷蔵庫に入れたり、早々に消費した方が良いでしょう。

ファースグループが建築する「ファースの家」の場合は、床下のファースシリカ(調湿機能のシリカゲル)と全熱式熱交換換気扇や空気の循環により、一般的な住宅に比べ、梅雨時季も幾分か過ごしやすいと思えますが限度はあります。

特に「ファースの家」を含め高い気密性能のある家の場合は、先の全熱式熱交換換気扇を含めた換気扇のフィルターの清掃を完璧に行わないと、換気不足になりますので注意が必要です。

気密性が低い家では、フィルターが詰まっても、どこかしらの隙間から自由に換気されますが、気密性が高い場合はこのフィルターが詰まると換気量が減少します。家屋内の湿度が高いと感じた時、またそうなる前には、換気扇のフィルターチェックや清掃をこまめに行った方が良いでしょう。

◇暮らし◇

次に気を付けたほうが良いのが洗濯物の室内干しについてです。

防犯上の問題や共働き等、最近では洗濯物は室内干しにされる方がかなり多くなってきています。

そのため、サーキュレーター等を使用して空気を動かし、洗濯物が良く乾くように工夫されている方も多いかと思えます。しかしサーキュレーターによって飛ばされた湿気は、単に室内に拡散されています。洗濯物は1人分で約1.5kg(1.5ℓ)の水分量と言われており、4人家族ですと1日6kgの水分量。一カ月180kg(180ℓ)というかなりの水分量となります。

壁の下地となる石膏ボードを含め、多く建材は水分量が25%以上になると、カビ発生の可能性が高まります。

湿度の高い梅雨時期等は、室内干しの際には除湿器と一緒に稼働させるのがお勧めです。除湿器は、タンクがいっぱいになると稼働しなくなりますので、タンクの容量等確認のうえ使用してください。

◇エアコン 除湿方法の確認◇

多くの方は「エアコン」で除湿が出来る『ドライ運転』といった機能があることはご存じだと思います。しかし機種や機能によっては条件が合わないとドライ運転でも湿気をとらない場合があります。

それが「弱冷房除湿」と「再熱除湿」と呼ばれる除湿方法の違いです(機種によって呼び方が異なる場合もあります)。

弱冷房除湿は冷房運転と同様の運転方法で、エアコン室内機内部にあるフィン冷冷たすることで結露を発生させ湿気をとるといった機能です。

梅雨時期のように、室内温度は高くないが湿気だけ取りたいといった場合は、中々うまく働かない場合や、室内気温がかなり低温になってしまうといった問題があります。

もう一方の再熱除湿は、エアコンのフィンの部分を低温にして湿気を回収した後、その湿気が回収された乾いた空気を少し温めて室内に放出するという機能です。つまり気温をあまりを変えずに湿気だけ取るという機能となります。

この再熱除湿は非常に優れた機能なのですが、各メーカー様のエアコンでも上位機種にしかこの機能はついていないことが多くあります。

梅雨対策を含めた除湿機能を得たい場合は、是非この『再熱除湿』の機能がついたエアコンがお勧めです。

エアコン買い替えや追加購入の際には、このような事情を理解したうえで、再熱除湿の機能がついたエアコンを購入されることをご検討ください。

(著・事業推進本部 藤原智人)